

## 7/2 第1回呉市中小企業・小規模企業振興会議ワーキンググループ議事概要

## 1. 本ワーキンググループでの決定事項

- (1) 令和6年度重点取組テーマ「人材」の施策として、経済産業省の「プロボノを活用した大企業人材とスタートアップの連携促進（大都市圏の大企業で働く人材が地方企業に無償で副業）」に取り組んでいく。  
そのほかの取組については次回以降検討していく。
- (2) 呉市中小企業・小規模企業振興基本条例実践シンポジウムについては10月5日に開催し、テーマは「採用手段の多様化と使い分け ～副業・プロボノ事例からの考察～」とする。
- (3) 市内企業経営動向調査を7月から実施し、調査項目についてはワーキンググループメンバーにも諮り決定する。

## 2. 各社・各機関の事業説明

- (1) DX支援ガイダンス中国地域DX推進支援ネットワークについて

ア 施策概要（説明者：中国経済産業局）

資料2のとおり

イ 質疑応答，感想

<竹元氏>

- ・DXとは、デジタル化が進んでいないとできないのか。

<菊地氏>

→AIを使ったDXについては文章等がデジタル化していることが前提となる。よってデジタル化が進んでいなければAIの導入はできないと考えている。

<富田氏>

- ・DX支援において、民間の主治医としての役割が期待される機関として、金融機関等の記載があるが、専門家ではないため、実際は難しいと思う。

<菊地氏>

→金融機関の方がIT人材として支援することが難しいという現実があり、理想としてはできた方がよいとするならば、この差をどうやって埋めるかという議論は実益があると思う。

<服部氏>

- ・信用金庫はDX支援において、民間の主治医としての役割が期待されているが、支援体制や内部人材を整えることが課題だと思っている。

<安川氏>

- ・人材を確保するのか、人材を流動化させるのか、人材を共有するのか、いろいろな議論があると思う。人材だけにフォーカスすると、狭い見地になってしまうため、呉市の現状や課題を把握し、ビジョンと現状のギャップをどう埋めていくのか検討しなければならない。

<菊地氏>

- ・個人的な意見ではあるが、AIが進んだ世界では、伝統文化などは残らないと思う。地域づくりについては、必ずしもデジタル化が必要ではなく、伝統文化の継承が重要かもしれない。

<菊地氏>

- ・AIが加速度的に進化すると、今後はものづくり人材が大事と言われる未来がくると思う。デジタル人材の育成というより、手に職のある人材の育成、技術者をどう残していくかとい

った部分にフォーカスすると呉市の強みを生かせる人材施策になるのではないかと思う。

(2) 地域の中堅・中核企業の経営力向上支援事業について

ア 施策概要（説明者：Dialogue for Everyone 株式会社）

資料3のとおり

イ 質疑応答，感想

<田中氏>

・くれ産業振興センターでは，1回2時間で3回程度の専門家派遣を行っている。専門家派遣終了後に伴走支援を行うことがあるが，その部分を当該事業にリクエストすることは可能か。

<大桃氏>

→可能である。派遣する人材のキャリア希望に応じて紹介することとなる。

<菊地氏>

・私自身，島根県海士町において無償で労働力を提供している。自己実現や活躍の場を求めてこのような活動をする人はいると思う。

また，南海トラフ地震や富士山噴火，台湾有事などによる影響で，食料危機となりうる関東圏の人々の疎開先や，更には疎開後の仕事探しなどにつながることも考えられ，地方創生としては非常に親和的な施策だと思う。

<大桃氏>

・関係人口の創出にもつながる施策だと考えている。

<安川氏>

・外部人材を受け入れる経営者は少ないと思う。まずは，事業承継や事業変革を行う若い経営者に，外部人材の活用を啓発していきたいと考えている。

<角氏>

・当該事業を今年度行うということか。

<事務局>

→くれ産業振興センター，Dialogue for Everyone（株），事務局による提案である。

<角氏>

・経営者の考え方の改革が必要だとのことだが，意識改革はどのようにするのか。また，当該施策が呉市においてどのくらい需要があるか分からない。

<大桃氏>

→シンポジウムやセミナーを通して意識改革を行うことを考えているが，初期段階では経験上，利用者の口コミによるものが大きい。また需要については，皆様の意見も伺いたい。

人材確保策の一つとして，外部人材（プロボノ）という選択肢もあるということを伝えたいと考えている。

<菊池氏>

・当該事業について，呉市の中小企業者はお金がかからないのか。

<大桃氏>

→大企業から（派遣側）お金をもらうので，呉市の中小企業者はお金がかからない。

<菊池氏>

・プロボノ人材活用後，ある程度成果等が見込めた場合に業務委託を結ぶということか。

<大桃氏>

→インターンシップは2か月間としており、インターンシップ終了後においても定期的なアドバイスや支援を必要とされる場合（4割強）は、業務委託をするという流れもある。

<服部氏>

- ・副業という言葉の意味や定義を誤解されている経営者が多いと感じる。言い方は悪いが、ワーバーイーツ的な意味合いで考えている部分があると思う。副業とはそのようなものでなくて、経営戦略課題を解決する上での一つの手段であることを認識してもらうためにも、継続的にセミナーなどを行っていく必要があると思う。

<安川氏>

- ・プロボノ人材の活用は、人材確保策の一つの方法論であり、その他にもいろいろな方法があると思う。それを把握した上で、まずは外部人材の活用について提案しているものである。

<富田氏>

- ・人材というテーマに対して、プロボノ人材の活用という施策は面白いとは思いますが、テーマの解決策として完全にフィットする施策であるかは疑問がある。この案を施策の一つとして行いながら、プラスアルファとして、例えばエンゲージメントに関する詳しい方をお呼びするといったふうに結びつけて、よりテーマに沿った内容とするのもいいと思う。

<安川氏>

- ・人材というテーマの全体像を見失わず、今年度行う実態調査に関するアンケートを参考にし皆さんに納得してもらえそうな施策を検討しないといけない。

### 3. 呉市中小企業・小規模企業振興基本条例実践シンポジウムについて

#### (1) 日時

- ・令和6年10月5日（土）14：00～16：30

#### (2) プログラム

- ・第1部 基調講演（60分程度）

テーマ：採用手段の多様化と使い分け ～副業・プロボノ事例からの考察～

講師：大桃 綾子 氏 (Dialogue for Everyone 株式会社 代表取締役)

- ・第2部 パネルディスカッション（60分程度）

大桃様に加え、市内企業で外部人材の受入れ実績がある企業や、その他人材に関する取組を実施する企業の方に登壇いただき、安川氏のファシリテートのもと、パネルディスカッションを実施

#### (3) ワーキングメンバーからの意見

- ・昨年度と同様に、登壇者が大桃様を含めて3人程度がよい。
- ・外部人材を活用している事例としては、株式会社 WATANABE がある。
- ・外部人材の活用はしていないが、違う視点を持っている企業（既に人的資本経営を行っている企業やDX、人材育成を行っている企業）がパネラーになることもよい。
- ・シンポジウムの構成や内容については異論なし。

### 4. 市内企業経営動向調査について

#### (1) 調査概要

市内企業の実態調査を行うため、商工会議所や広域商工会同友会に加盟されている企業の約

3, 0 0 0社程度を対象に, 市内企業経営動向調査を実施

(2) 調査項目

本体会議の委員の意見を参考に事務局案を作成し, その後ワーキンググループメンバーの意見も伺い調査票を作成

5. その他

(1) グループディスカッション

2班に分かれて, 会議内容の振り返りや施策案について意見交換

(2) 次回ワーキンググループの実施内容

8月後半に開催することとし, 来年度実施する「人材」に関する具体的な施策案についてグループワークを行う予定